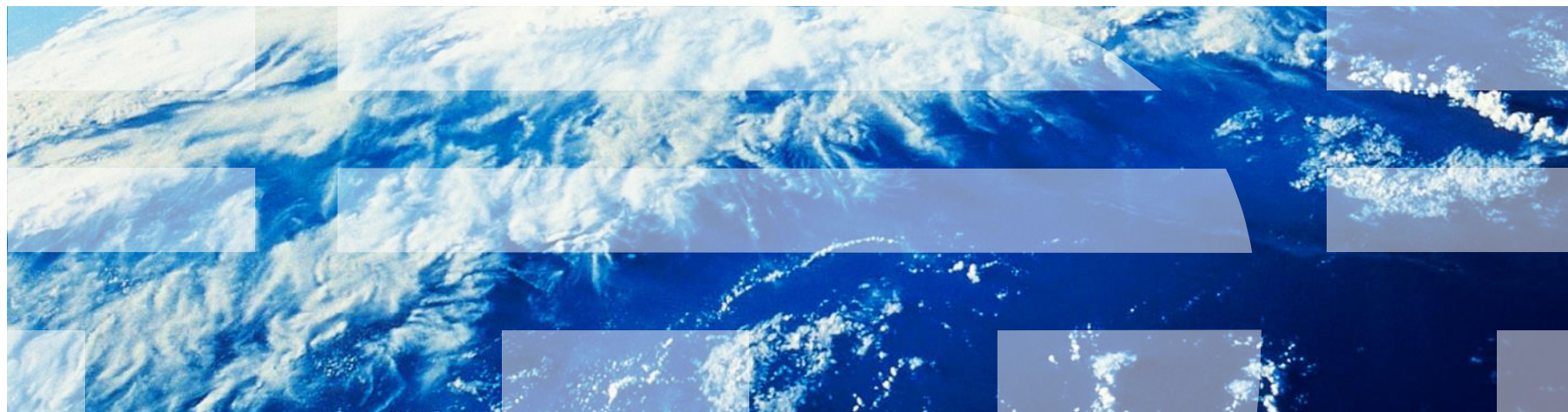


# ***IBM Worklight V6.1.0*** **入門**

## アダプターにおける Java の使用



## 商標

- IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- この資料は、事前に IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製することは禁じられています。

## IBM® について

- <http://www.ibm.com/ibm/us/en/> を参照してください。

# アジェンダ

- 概要
- カスタム Java クラスをプロジェクトに追加
- アダプターからのカスタム Java クラスの呼び出し
- Java コードからのアダプター・プロシージャーの呼び出し
- 演習

## 概要

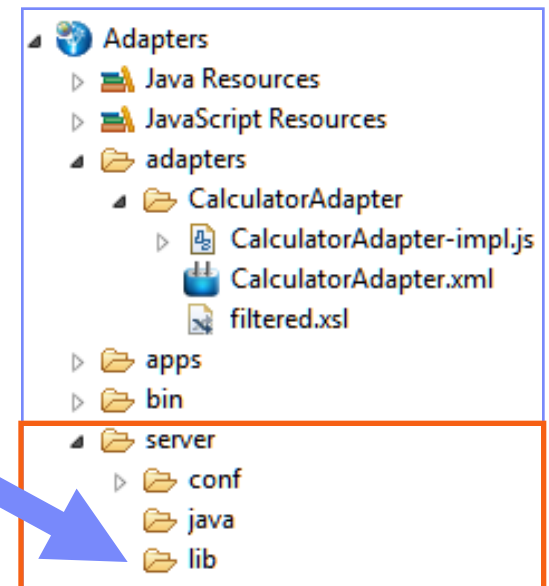
- アダプターとは、サーバー・サイド・エンティティです。
- アダプターは JavaScript™ で実装されます。
- いくつかの複雑な機能 (例: データの暗号化と復号化、セキュリティー・トークンの生成と妥当性検査) を実行するには、アダプターを使用します。
- それらの機能を実装するのに JavaScript だけでは不十分である場合や既存の Java™ クラスがある場合には、Java コードをアダプターで使うことができます。
- **重要: Java コードは、アダプターの拡張機能であり、アダプターに代わるものとして使用することはできません。**

# アジェンダ

- 概要
- カスタム Java クラスをプロジェクトに追加
- アダプターからのカスタム Java クラスの呼び出し
- Java コードからのアダプター・プロシージャラーの呼び出し
- 演習

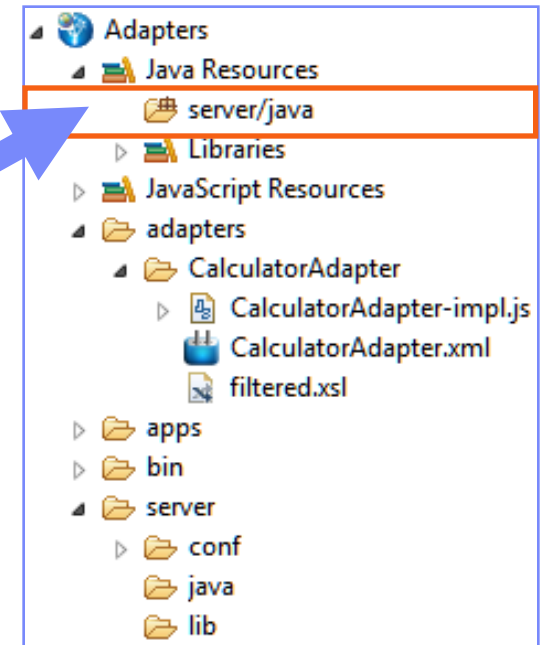
## カスタム Java クラスをプロジェクトに追加

- 既存の Java ライブラリーを使用するには、JAR ファイルを Worklight® プロジェクトの `server\lib` フォルダーに追加します。
- Worklight アダプターをビルドしてデプロイすると、その JAR ファイルが自動的に Worklight Server にデプロイされます。



## カスタム Java クラスをプロジェクトに追加 – 続き

- カスタム Java コードをプロジェクトに追加するには、Worklight プロジェクトの `server/java` フォルダを右クリックし、Java クラス・ファイルを追加します。ファイルには **Calculator1.java** という名前を付けます。
- **重要:** – パッケージ名の先頭は **com**、**org** または **net** でなければなりません。
- このファイルをパッケージに追加します。  
このサンプルでは、`com.worklight.customcode` を使用します。



## カスタム Java クラスをプロジェクトに追加 – 続き

- 2つのメソッドを Calculator1.java クラスに追加します。
  - 静的メソッド。クラスの新規インスタンスは必要ありません。
  - インスタンス・メソッド。

```
package com.worklight.customcode;  
  
public class Calculator1 {  
    public static int addTwoIntegers(int first, int second){  
        return first + second;  
    }  
    public int subtractTwoIntegers(int first, int second){  
        return first - second;  
    }  
}
```

- Java コードに他にも依存関係がある場合は、必要な JARs を Worklight プロジェクトの server¥lib フォルダーに入れます。



# アジェンダ

- 概要
- カスタム Java クラスをプロジェクトに追加
- アダプターからのカスタム Java クラスの呼び出し
- Java コードからのアダプター・プロシージャーの呼び出し
- 演習

## アダプターからのカスタム Java クラスの呼び出し

- カスタム Java コードを作成して必要な JAR ファイルを追加すると、そのコードが Java で記述されているかのように Worklight アダプターの JavaScript から参照できるようになります。

```
function addTwoIntegers(a,b){  
    return {  
        result: com.worklight.customcode.Calculator1.addTwoIntegers(a,b)  
    };  
}  
  
function subtractTwoIntegers(a,b){  
    var calcInstance = new com.worklight.customcode.Calculator1();  
  
    return {  
        result : calcInstance.subtractTwoIntegers(a,b)  
    };  
}
```

静的 Java メソッドをこのようにして呼び出し、  
完全クラス名を使用して直接参照する

## アダプターからのカスタム Java クラスの呼び出し - 続き

- カスタム Java コードを作成して必要な JAR ファイルを追加すると、そのコードが Java で記述されているかのように Worklight アダプターの JavaScript から参照できるようになります。

```
function addTwoIntegers(a,b){  
  return {  
    result: com.workli  
  };  
}
```

インスタンス・メソッドを使用するには、クラス・インスタンスを作成して、そのインスタンスからインスタンス・メソッドを呼び出す

```
function subtractTwoIntegers(a,b){  
  var calcInstance = new com.worklight.customcode.Calculator1();  
  
  return {  
    result : calcInstance.subtractTwoIntegers(a,b)  
  };  
}
```



# アジェンダ

- 概要
- カスタム Java クラスをプロジェクトに追加
- アダプターからのカスタム Java クラスの呼び出し
- Java コードからのアダプター・プロシージャラーの呼び出し
- 演習

## Java コードからのアダプター・プロシーチャーの呼び出し

- 自分で作成した Java コードから Worklight アダプター・プロシーチャーを呼び出すこともできます。

```
public void callProcedure(){
    DataAccessService service = WorklightBundles.getInstance().getDataAccessService();
    String paramArray = "['param1','param2','param3']";
    ProcedureQName procedureQName = new ProcedureQName("adapterName", "procedureName");
    InvocationResult result = service.invokeProcedure(procedureQName, paramArray);
    JSONObject jsonObject = result.toJSON();
    String value = (String)jsonObject.get("key");
}
```

## Java コードからのアダプター・プロシーチャーの呼び出し - 続き

- 自分で作成した Java コードから Worklight アダプター・プロシーチャーを呼び出すこともできます。


```
public void callProcedure(){  
    DataAccessService service = WorklightBundles.getInstance().getDataAccessService();  
    String paramArray = ["param1", "param2", "param3"];  
    ProcedureQName procedureQName = new ProcedureQName("adapterName", "procedureName");  
    InvocationResult result = service.invokeProcedure(procedureQName, paramArray);  
    JSONObject jsonObject = result.toJSON();  
    String value = (String)jsonObject.get("key");  
}
```

DataAccessService インスタンスへの  
参照を取得する

## Java コードからのアダプター・プロシーチャーの呼び出し - 続き

- 自分で作成した Java コードから Worklight アダプター・プロシーチャーを呼び出すこともできます。

```
public void callProcedure(){
    DataAccessService service = WorklightBundles.getInstance().getDataAccessService();
    String paramArray = ["param1", "param2", "param3"];
    ProcedureQName procedureQName = new ProcedureQName("adapterName", "procedureName");
    InvocationResult result = service.invokeProcedure(procedureQName, paramArray);
    JSONObject jsonObject = result.toJSON();
    String value = (String)jsonObject.get("key");
}
```



パラメーター配列と  
ProcedureQName オブジェクトを作成する

## Java コードからのアダプター・プロシージャの呼び出し - 続き

- 自分で作成した Java コードから Worklight アダプター・プロシージャを呼び出すこともできます。

```
public void callProcedure(){
    DataAccessService service = WorklightBundles.getInstance().getDataAccessService();
    String paramArray = "['param1','param2','param3']";
    ProcedureQName procedureQName = new ProcedureQName("adapterName", "procedureName");
    InvocationResult result = service.invokeProcedure(procedureQName, paramArray);
    JSONObject jsonObject = result.toJSON();
    String value = (String)jsonObject.get("key");
}
```

プロシージャを呼び出し、返される  
InvocationResult を使用する



# アジェンダ

- 概要
- カスタム Java クラスをプロジェクトに追加
- アダプターからのカスタム Java クラスの呼び出し
- Java コードからのアダプター・プロシージャラーの呼び出し
- 演習

## 演習

- このモジュールで示されている加算機能と減算機能を、アダプターによって呼び出されるカスタム Java コードとして実装します。

```
Invocation Result of procedure: 'addTwoIntegers' from the Worklight Server:
```

```
{  
  "isSuccessful": true,  
  "result": 7  
}
```

- このトレーニング・モジュールのサンプルは、IBM Worklight 文書 Web サイト (<http://www.ibm.com/mobile-docs>) の「入門」ページにあります。

## 確認テスト

- 既存の JAR 関数を Worklight アダプターで使用することはできますか。
  - いいえ。使用できません。
  - はい。JAR ファイルを server¥lib フォルダーに追加することにより、使用できます。
  - はい。JAR ファイルを Eclipse ワークスペースにコピーすることにより、使用できます。
  - はい。JAR ファイルを server¥java フォルダーに追加することにより、使用できます。
- Worklight アダプターからはどのようなタイプの Java メソッドを呼び出すことができますか。
  - クラス・インスタンスを作成する必要がない静的メソッドのみ。
  - 新規クラス・インスタンスの作成後に呼び出されるインスタンス・メソッドのみ。
  - 静的メソッドとインスタンス・メソッドの両方をアダプターから呼び出すことができます。
  - アダプターは、指定される Java コードに対するフルアクセスを持つので、静的メソッド、パブリック・メソッド、およびプライベート・メソッドを呼び出すことができます。
- どのようにしたら Java コードを Worklight アダプターの代わりに使用できますか。
  - Java コードへの直接ルーティングにより、Worklight アダプターを使用しなくても済むようになります。
  - アダプター XML ファイルで useJavaAdapters プロパティを true に設定します。
  - アダプター JS ファイルを削除し、XML ファイルで Java クラスを宣言します。
  - Java コードは、アダプターの拡張機能であり、アダプターに代わるものとして使用することはできません。

## 確認テスト

- 既存の JAR 関数を Worklight アダプターで使用することはできますか。
  - いいえ。使用できません。
  - はい。JAR ファイルを server¥lib フォルダに追加することにより、使用できます。
  - はい。JAR ファイルを Eclipse ワークスペースにコピーすることにより、使用できます。
  - はい。JAR ファイルを server¥java フォルダに追加することにより、使用できます。
- Worklight アダプターからはどのようなタイプの Java メソッドを呼び出すことができますか。
  - クラス・インスタンスを作成する必要がない静的メソッドのみ。
  - 新規クラス・インスタンスの作成後に呼び出されるインスタンス・メソッドのみ。
  - 静的メソッドとインスタンス・メソッドの両方をアダプターから呼び出すことができます。
  - アダプターは、指定される Java コードに対するフルアクセスを持つので、静的メソッド、パブリック・メソッド、およびプライベート・メソッドを呼び出すことができます。
- どのようにしたら Java コードを Worklight アダプターの代わりに使用できますか。
  - Java コードへの直接ルーティングにより、Worklight アダプターを使用しなくても済むようになります。
  - アダプター XML ファイルで useJavaAdapters プロパティを true に設定します。
  - アダプター JS ファイルを削除し、XML ファイルで Java クラスを宣言します。
  - Java コードは、アダプターの拡張機能であり、アダプターに代わるものとして使用することはできません。

# 特記事項

- これらの資料は、以下のご使用条件に同意いただける場合に限りご使用いただけます。
- 本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。
- 本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。
- IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。
  - 〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外
- 以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。
- この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。
- 本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。
- IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。
- 本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。
  - IBM Corporation  
Dept F6, Bldg 1  
294 Route 100  
Somers NY 10589-3216  
USA

- 本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。
  - 本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。
  - IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお問い合わせください。
- 著作権使用許諾:**
- 本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。
  - それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。
    - © (お客様の会社名) (西暦年).このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_ All rights reserved.

## プライバシー・ポリシーの考慮事項

- サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie ははじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。
- このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、（アプリケーション・サーバーが生成する）セッション情報を収集するセッションごとの Cookie を使用する場合があります。これらの Cookie は個人情報を含まず、セッション管理のために要求されるものです。加えて、匿名ユーザーの認識および管理のために持続的な Cookie が無作為に生成される場合があります。これらの Cookie も個人情報を含まず、要求されるものです。
- この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の「クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー」および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy/>) を参照してください。

# サポートおよびコメント

- IBM Worklight の一連の文書、トレーニング資料、および質問をポストできるオンライン・フォーラムはすべて、次の IBM Web サイトからご覧になれます。
  - <http://www.ibm.com/mobile-docs>
- サポート
  - ソフトウェア・サブスクリプション & サポート (ソフトウェア・メンテナンスと呼ばれる場合もあります) は、パスポート・アドバンテージおよびパスポート・アドバンテージ・エクスプレスから購入されたライセンスに含まれています。International Passport Advantage Agreement および IBM International Passport Advantage Express Agreement の追加情報については、次のパスポート・アドバンテージ Web サイトを参照してください。
    - <http://www.ibm.com/software/passportadvantage>
  - ソフトウェア・サブスクリプション & サポートが有効になっている場合、IBM は、インストールおよび使用法 (ハウツー) に関する短期間の FAQ に対するサポートや、コード関連の質問に対するサポートを提供します。詳しくは、次の IBM ソフトウェア・サポート・ハンドブックを参照してください。
    - <http://www.ibm.com/support/handbook>
- ご意見
  - 本資料に関するご意見をお寄せください。本資料の具体的な誤りや欠落、正確性、編成、題材、または完成度に関するご意見をお寄せください。お寄せいただくご意見は、本マニュアルまたは製品の情報、およびその情報の提示方法に関するもののみとしてください。
  - 製品の技術的な質問および情報、および価格については、担当の IBM 営業所、IBM ビジネス・パートナー、または認定リマーカーターにお問い合わせください。
  - IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。IBM またはいかなる組織も、お客様から提示された問題についてご連絡を差し上げる場合にのみ、お客様が提供する個人情報を使用するものとします。
  - どうぞよろしくお願いいたします。
  - 次の IBM Worklight Developer Edition サポート・コミュニティにご意見をお寄せください。
    - <https://www.ibm.com/developerworks/mobile/worklight/connect.html>
  - IBM からの回答を希望される場合は、以下の情報をご連絡ください。
    - 氏名
    - 住所
    - 企業または組織
    - 電話番号
    - Eメール・アドレス

ありがとうございました

